



人のせいにせず 自分で決める

香川 京子さん (90) 俳優業一筋、70 年以上。今も出演依頼が来る。出演作は映画だけで 137 本だ。それでも「ただ普通に仕事をしてきただけ」と控えめにほほ笑む。「凜」という言葉が似合う人。その自然なたたずまいに、現役を続ける凄みが漂う。

無理をしない

「普段から年齢のことは考えないので、なんでこんなに時間がたっちゃたのかしらって思います。私の仕事には定年がないのですから、ひとつひとつの仕事を一生懸命やってきただけですね。そういう感じなんです。」

「健康の秘訣は何もないんです。胃腸が弱いので、お酒も飲めないし小食です。体形はずっと変わりません。ただ、規則正しい生活はしています。あとは無理をしないこと。人のせいにするのが嫌いなんです。うまくいかなくても自分で決めれば、自分がダメだと納得できます」

「50 代のときに老け役をやって、すごく楽になった。きれいにしなきゃという肩の力が抜けて無理なく演技ができました。うれしかった。過去があって今を生きている。その積み重ねた年齢を演じています。生涯現役と気負うことなく、最期の準備もせず、これからも自然に生きていきます」

後記

「もう女優は終わりだと思いました」そう振り返る場面がある。黒澤明監督の「悪い奴ほどよく眠る」(60 年) で三船敏郎さんの妻役を演じた。オープンカーから降りるときにフロントガラスに額を打ち 4 針を縫った。病院に駆けつけた報道陣に対応したのは三船さんだった。「私を守ってください。本当に格好いい方なんです」。そう言ってはにかんだ。

少女のような恥じらいと芯が通った大人の姿勢が同居する。小津安二郎監督は香川さんを「洗いたての感じ」と表現したというが、20 代から変わらぬ清廉さの中に不思議な二面性がのぞく。「私って普通なの」とよく口にする。普通の魅力に取り込まれそうになる。

俳優 香川 京子 さん

人生100年の羅針盤 日経新聞 より



人生 100 年を生き抜かんとする方々。生涯現役と言えるものを持てるころ強さ。教えられることばかりです。

菅平米園 園主 須田 正一